

## トマトキバガの初確認について

1. 病虫害名：トマトキバガ（チョウ目キバガ科） *Tuta absoluta* (Meyrick)

2. 特殊報の内容：秋田県における誘殺成虫の初確認

3. 発生の経過

令和5年6月19日、秋田地域のトマト栽培ほ場周辺に設置した侵入調査用のトマトキバガのフェロモントラップにおいて誘殺された蛾の成虫（図-1）を横浜植物防疫所が同定した結果、本県では未発生のトマトキバガであることが6月23日に判明した。現在のところ、本種による農作物の被害は確認されていない。

トマトキバガは、国内では、令和3年10月に熊本県で初めて確認され、宮崎県、鹿児島県、大分県、福岡県、長崎県、愛媛県、和歌山県、岡山県、山口県、広島県、佐賀県、沖縄県、青森県で確認されている。

4. 形態・生態と被害の特徴

(1) 成虫（図-1）は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長約5mm、開張約10mm）の小型の蛾である。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一樣に淡黒褐色で翅頂下がえぐれている。

(2) 幼虫（図-2）は、終齢（4齢）で約8mm。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

(3) 1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。

(4) 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうちに平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

(5) トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する（図-3）。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（図-4）。

ばれいしょでは主に地上部を加害する（図-5）。

5. 寄主範囲

トマト、ばれいしょ、なす、ピーマン等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも、寄主植物として確認されている。

6. 対策

ほ場内をよく見回り、トマトキバガが発生していないか確認する。発生が疑われた場合は、病虫害防除所（TEL:018-881-3660）に連絡するとともに以下の防除対策を実施する。

(1) 成虫及び幼虫は見つけ次第捕殺する。

(2) 発生を拡大させないため、速やかに薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。

(3) トマトキバガに対する登録農薬は表-1のとおりである。

また、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、表-2に記載された農薬による防除を行うことができる。

なお、薬剤散布にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐためRACコードが異なる薬剤でローテーション防除を行う。

## 7. 資料



図-1 県内で誘殺された成虫



図-2 トマトキバガ (幼虫)



図-3 トマト果実の食害痕 (飼育個体)



図-4 トマト葉の食害痕 (飼育個体)



図-5 ばれいしょ葉の食害痕 (飼育個体)

【図2～5は農林水産省植物防疫所原図】

表－1 トマトキバガに登録のある薬剤（トマト及びミニトマト）

IRAC コード	農薬名	使用時期	希釈倍数 又は使用量	散布液量	使用方法	本剤の 使用回数	各成分の 総使用回数
28	ベネビアOD	収穫前日まで	2,000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	ア
28	ベリマークSC	育苗期後半 ～定植当日	400株当り25mL	400株当り10～20L (1株当り25～50mL)	灌注	1回	ア
28	プリロッソ粒剤	育苗期後半 ～定植時	2g/株	－	株元散布	1回	ア
28	プリロッソ粒剤オメガ	育苗期後半 ～定植時	2g/株	－	株元散布	1回	ア

ア：シアントラニリブロール（4回以内（但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内））

表－2 植物防疫法第29条第1項の規定により使用できる薬剤

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はないが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能である。

トマト

商品名	IRAC
クリアオール水和剤	3A, 23
アーデント水和剤	3A
カルホス粉剤	1B
トルネードエースDF	22A
アフーム乳剤	6
マトリックフロアブル	18
コテツフロアブル	13
石原アタブロン乳剤	15
ディアナSC	5
スピノエース顆粒水和剤	5
プレバソンフロアブル5	28
フェニックス顆粒水和剤	28
ヨーバルフロアブル	28
ミネクトデュオ粒剤	28, 4A
ノーモルト乳剤	15
カスケード乳剤	15
カウンター乳剤	15
アフームエクセラ顆粒水和剤	6, 15
プレオフロアブル	UN
グレーシア乳剤	30

ミニトマト

商品名	IRAC
クリアオール水和剤	3A, 23
アーデント水和剤	3A
カルホス粉剤	1B
アフーム乳剤	6
プレバソンフロアブル5	28
フェニックス顆粒水和剤	28
ヨーバルフロアブル	28
ミネクトデュオ粒剤	28, 4A
コテツフロアブル	13
石原アタブロン乳剤	15
ディアナSC	5
スピノエース顆粒水和剤	5
ノーモルト乳剤	15
カウンター乳剤	15
カスケード乳剤	15
アフームエクセラ顆粒水和剤	6, 15
プレオフロアブル	UN
グレーシア乳剤	30

## ばれいしょ

商品名	IRAC
マイクロデナポン水和剤85	1A
エルサン乳剤	1B
ジェネレート水溶剤	1B
モスピラン顆粒水溶剤	4A
パダン粉剤DL	14

## なす

商品名	IRAC
アーデント水和剤	3A
プレバソンフロアブル5	28
コテツフロアブル	13
石原アタブロン乳剤	15
アニキ乳剤	6
アフーム乳剤	6
カスケード乳剤	15
ディアナSC	5
スピノエース顆粒水和剤	5
ヨーバルフロアブル	28
フェニックス顆粒水和剤	28
ミネクトデュオ粒剤	28, 4A
グレーシア乳剤	30
マッチ乳剤	15

## ピーマン

商品名	IRAC
アディオン乳剤	3A
アグロスリン水和剤	3A
アフーム乳剤	6
アニキ乳剤	6
コテツフロアブル	13
石原アタブロン乳剤	15
ディアナSC	5
スピノエース顆粒水和剤	5
マトリックフロアブル	18
ファルコンフロアブル	18
ランネート45DF	1A
カウンター乳剤	15
マッチ乳剤	15
カスケード乳剤	15
プレオフロアブル	UN
プレバソンフロアブル5	28
フェニックス顆粒水和剤	28
トルネードエースDF	22A
グレーシア乳剤	30

IRAC農業用殺虫剤作用機構 分類の最新版は農薬工業会ホームページを参照。  
(<http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

## 【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP	<a href="https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/">https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/</a>